

広告特集 企画・制作 朝日新聞社
メディア事業本部

未来のために何ができるか考えよう!

紙|上|採|録



地球にやさしい未来を、みんなで。

かんきょう1日学校

9月22日に東京・有楽町朝日ホールで「かんきょう1日学校2024」が行われました。企業の環境に配慮した取り組みを子どもたちが学び、そこから地球や自分の将来について考えたことを、「かんきょう新聞」づくりなどを通じて伝える大切さを育むことを目的としています。今年は去年より2企業が増え、7企業が会場およびインターネット観覧で参加した子どもたちに向けて授業を行いました。子どもたちの未来を守るために大切な学びの活動は、年々着実に広がっています。



グループ1

グループ2

環境活動につながる好奇心を育むために

旭化成グループは「世界の人びとの「いのち」と「くらし」に貢献する」というミッションを掲げ、「健康で快適な生活」「環境との共生」の実現を通して新たな価値を提供していくことを目指しています。かんきょう1日学校では「長く住み続けられる家の大切さ」について授業し、「よいものをつくる」「きちんと手入れする」「古い家をいかす」ことが大事であることを、HEBEL HAUSの取り組みをもとに紹介しました。授業を聞くお父さんたちの真剣なまなざしやワクワクした表情がとても印象的でした。環境学習には、くらしの中で「なぜ」を見つけ、答えを知りたいと「調べる」ことが大切です。楽しみながら続けることで、皆さんのエコアクションを確立してほしいと思います。当社グループは、「次世代育成」の観点で、人財と技術を有効に活用し、特色ある活動を展開していきます。(談)

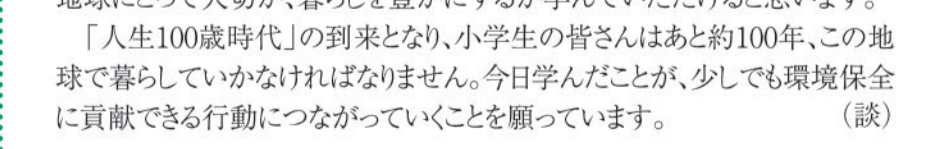
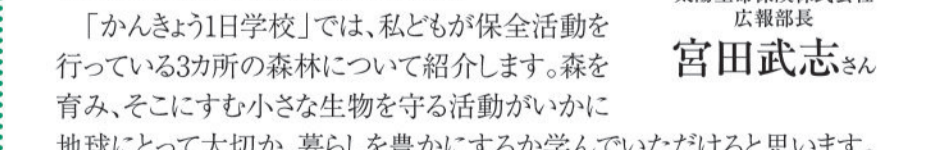
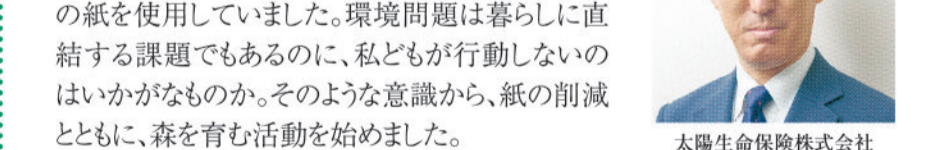
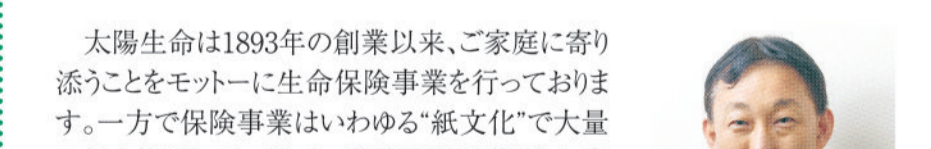
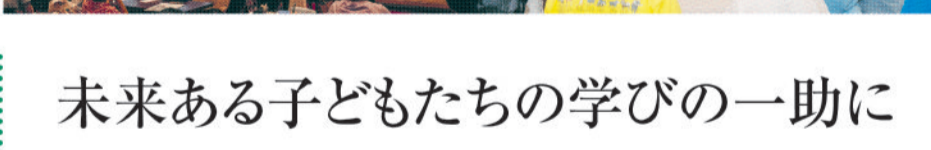


旭化成株式会社
広報部
ブランドコミュニケーション室長
朝日賢一さん



豊かな地球環境と子どもたちの未来を守るために

「地球教室®」は、豊かな自然を守るために大人がどんなことに取り組んでいるかを伝え、次代を担う子どもたちが「自分には何ができるか」を考えるきっかけを生み出しています。協賛する7社に、環境教育に対する思いを聞きました。



人と人をつなぐ環境への取り組み

株式会社ロッテは2023年に「独創的なアイデアとこころ動かす体験で人と人をつなぎ、しあわせな未来をつくる。」というパーパスを新たに策定しました。そのパーパスの中で掲げる「しあわせな未来」という言葉には、持続可能な地球と社会を実現するという私たちの決意が表れています。毎年参加している「地球教室®」は、ロングセラー商品「コアラのマーチ」を通じてロッテが取り組んでいることを、多くの子どもたちに知ってもらえる貴重な場であると考えています。親しみのあるお菓子を介して環境への関心が高まり、持続可能な地球と社会の実現に向けて消費者と企業が一緒に歩んでいけるよう、私たちはこれからも活動を続けてまいります。(談)



株式会社ロッテホールディングス
コミュニケーション広報部
部長
似内裕一さん



身の回りから環境課題解決を

私たちUACJ(ユーエーシージェー)は、アルミニウム総合メーカーとして、飲料缶、IT機器、ルームエアコン、自動車、電車、飛行機、ロケットなど、さまざまな分野で用いられるアルミ素材を提供しています。かんきょう1日学校では、「強く軽い」「リサイクル性が高い」といったアルミニウムの長所を取り上げ、身近な製品を通して、アルミニウムがどのように環境負荷低減に貢献するかをご紹介します。自分たちの将来や次の世代の地球環境について、一度立ち止まって考えるきっかけとなったなら幸いです。当社は「アルミでかなえる、軽やかな世界」をスローガンに掲げ、アルミニウムの製造を通して、持続可能で豊かな社会の実現を目指し取り組んでいます。今後もさまざまな機会を通じて、次世代を担う子どもたちの育成支援を推進してまいります。(談)



株式会社UACJ
総務・広報部 広報グループ長
新井佳代子さん



技術や願いに思いをはせてほしい

今回の「かんきょう1日学校」では、「鉄道のエコ」をテーマに、鉄道がCO₂排出量の少ない乗り物であることや、鉄道のプレーキに使用されている省エネの仕組みについてご紹介しました。子どもたちのたくさん質問に答えられたことをうれしく思っています。当社は昨年、理念体系である「ナブテスコウェイ」を改定しました。新しい「ナブテスコウェイ」では「人と地球の視点で」を掲げ、人だけでなくあらゆる生物や自然環境を含んだ視点で考えること、また、限りある資源を守り、持続可能な社会をつくるため、地域と共生する意識や取り組みが重要であることを謳っています。六つの事業分野でのづくりを行う当社は、今後も「人と地球の視点で」取り組み、その事例を紹介することを通じて、子どもたちに学びと探求の機会を提供し、次世代育成に貢献してまいります。(談)



ナブテスコ株式会社
コーポレートコミュニケーション部
マネージャー
藤田 恵さん



未来ある子どもたちの学びの一助に

太陽生命は1893年の創業以来、ご家庭に寄り添うことをモットーに生命保険事業を行っております。一方で保険事業はいわゆる「紙文化」で大量の紙を使用していました。環境問題は暮らしに直結する課題でもあるのに、私どもが行動しないのはいかげなものか。そのような意識から、紙の削減とともに、森を育む活動を始めました。「かんきょう1日学校」では、私どもが保全活動を行っている3カ所の森林について紹介します。森を育み、そこにすむ小さな生物を守る活動がいかに地球にとって大切か、暮らしを豊かにするお供えに思っています。「人生100歳時代」の到来となり、小学生の皆さんはあと約100年、この地球で暮らしていかなければなりません。今日学んだことが、少しでも環境保全に貢献できる行動につながっていくことを願っています。(談)



太陽生命保険株式会社
広報部長
宮田 武志さん

好奇心と探究心を育てる

三機工業グループはビルの空調・衛生・電気設備や、都市の上下水処理施設など、様々な社会インフラを通じて、世の中を「カイトキ」にしていく仕事をしています。また、カーボンニュートラルなど様々な社会課題に対し、エンジニアリング企業として答えを出し、サステナブルな世界の実現に貢献する企業でありつづけることを目指しています。かんきょう1日学校をきっかけに、暮らしの中の身近にある「カイトキ」を見つけ、それを持続可能にするためには何が必要か、小さなことでも良いので、気づきが得られることを期待しています。子どもたちの知的な好奇心と探究心を育てることが、我々、大人たちの役目であり、企業としての責任でもあります。三機工業は「地球教室」への協賛を通じて、地球の未来を担う次世代の育成に貢献してまいります。(談)



三機工業株式会社
コーポレート本部
経営企画副室長兼広報・IR部長
田村 鎮宏さん



くらしの中で環境を考えるきっかけに

UR都市機構は約70年にわたり、時代とともに変化する社会課題に向き合いながら、まちづくり、住まいづくりを進めてきました。現在は、都市の再生、UR賃貸住宅の管理、災害からの復興支援を主な業務としています。まちづくりの過程では環境への負荷を少なくし、自然環境の保全・再生、資源の有効利用などに努めています。かんきょう1日学校では、UR賃貸住宅の建て替えの際には壊した建物や樹木などの資源をほぼ再利用するなど、廃棄物の利活用や環境対策に取り組んでいることを紹介し、実際に廃材に触れる体験を通して学んでいただきました。この経験が、日頃から環境や地域の将来などを考えるきっかけとなれば幸いです。私たちUR都市機構は、今後も次世代を担う子どもたちの育成支援を進めてまいります。(談)



独立行政法人都市再生機構
総務部 広報室長
松尾 知香さん

